



杉本 たまえ



荒川 友美

## 第29回 “癒し”としての自己表現展 —心の杖として鏡として—

1990年初頭以来、作品の発表の「場」として〈造形教室〉のメンバーが自主的に準備や展示、運営を行い、毎年開催してきた「“癒し”としての自己表現展」。

“街の中で作品展を”という意図のもとで始められた本展は、病者や障害を持つものの理解や同情といった多数者の立場、段差を超え、それが自分自身の生き方を見つめ直す、かけがえのない場・関係性を索め、試行してきました。

“パッショニ=受苦受難・情念情動”から生み出され、自らを癒し支える自己表現の活動は、困難な現代社会を生きる人々にとって通底・協働する問題を逆照射しているとはいえないでしょうか。

「生きる」とは何か…、「病む」とは何か…、「表現」とは何か…、今回もアートを通じた交感、交流の「場」となることを希(のぞ)んでおります。

平川病院〈造形教室〉



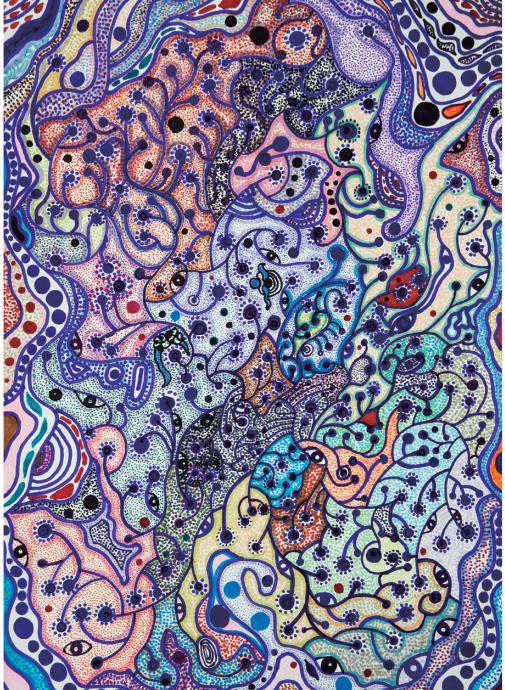
石倉 真理



長谷川 亮介



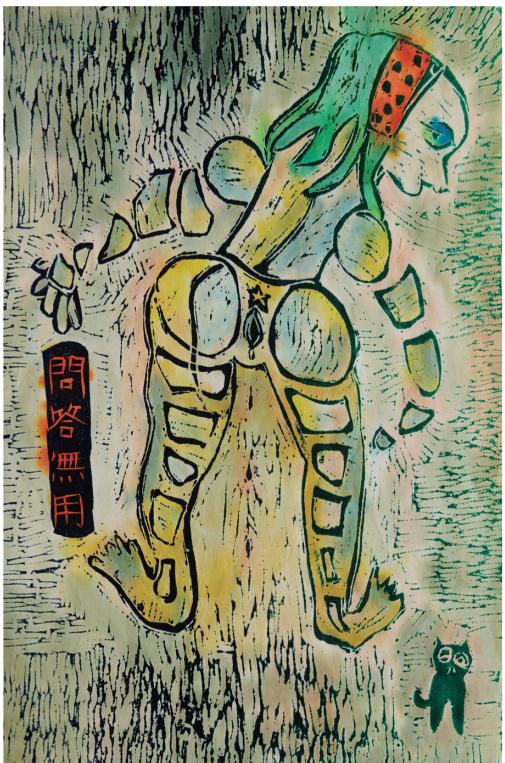
或馬 次郎



島崎 敏司



森 隆敏



渡部 美和子